

Q 答<sup>こた</sup>えの<sup>A,</sup>ない  
unanswered  
question 問題<sup>もん だい</sup>

公式ファンブック

ネタバレ注意



# 社会人 × ゲーム × コミュニケーション

必要なのは、話し合うこと

答えのない問題とは

内定者研修 × TRPG

社会で求められるコミュニケーション能力。  
[ TRPG ] という遊びを通して、傾聴力をはじめとした  
コミュニケーション能力の向上と人間関係の構築を手助け  
するゲームセット。






TRPG とは、人生ゲームなどのテーブルゲームの1種。  
プレイヤー同士の会話をメインコンテンツとし、定められた  
物語の中で、ストーリーを進めていくゲームである。  
プレイヤー同士の会話がなければ、ゲームが進まないとい  
う性質がある。

社会では、新入社員や先輩社員が共に抱える「相手と上手く  
コミュニケーションを取れるか」「話す機会を得れるか」と  
いったコミュニケーション問題が多い。

この問題と TRPG の性質と組み合わせ、誕生したのが  
『答えのない問題』である。

# Contents



-  Chapter.1 シナリオ
-  Chapter.2 キャラクター
-  Chapter.3 エンド解説
-  Chapter.4 前日談
-  Chapter.5 あとがき

本書は、ゲームセット『答えのない問題』シナリオ本編に登場したキャラクターの紹介や裏話、短編小説など、シナリオストーリーをメインとしたファンブックです。

『答えのない問題』に同梱されているシナリオシート並びにシナリオ本編のネタバレを大いに含みます。

未プレイ者は、ご理解の上、閲覧ください。



## Chapter

# 1

## シナリオ

物語の前菜となるシナリオの前情報をまとめました。

トレーラーと呼ばれるシナリオの入り口をお楽しみください。

## シナリオトレーラー

# 答えのない問題

知を愛し求めた先に、君はなにを見出すだろうか

推奨人数 : 4~6人

舞台 : 現代日本 クローズド

ロスト率 : 無

推奨技能 : 目星、聞き耳

▽本シナリオの独自ルール・目標▽

プレイヤー同士の会話を目的とした TRPG

意見は“必ず否定してはいけない”

正解・不正解のない出来事に対し、探索者内で

ひとつの結論を出して先に進むこと

## シナリオ導入

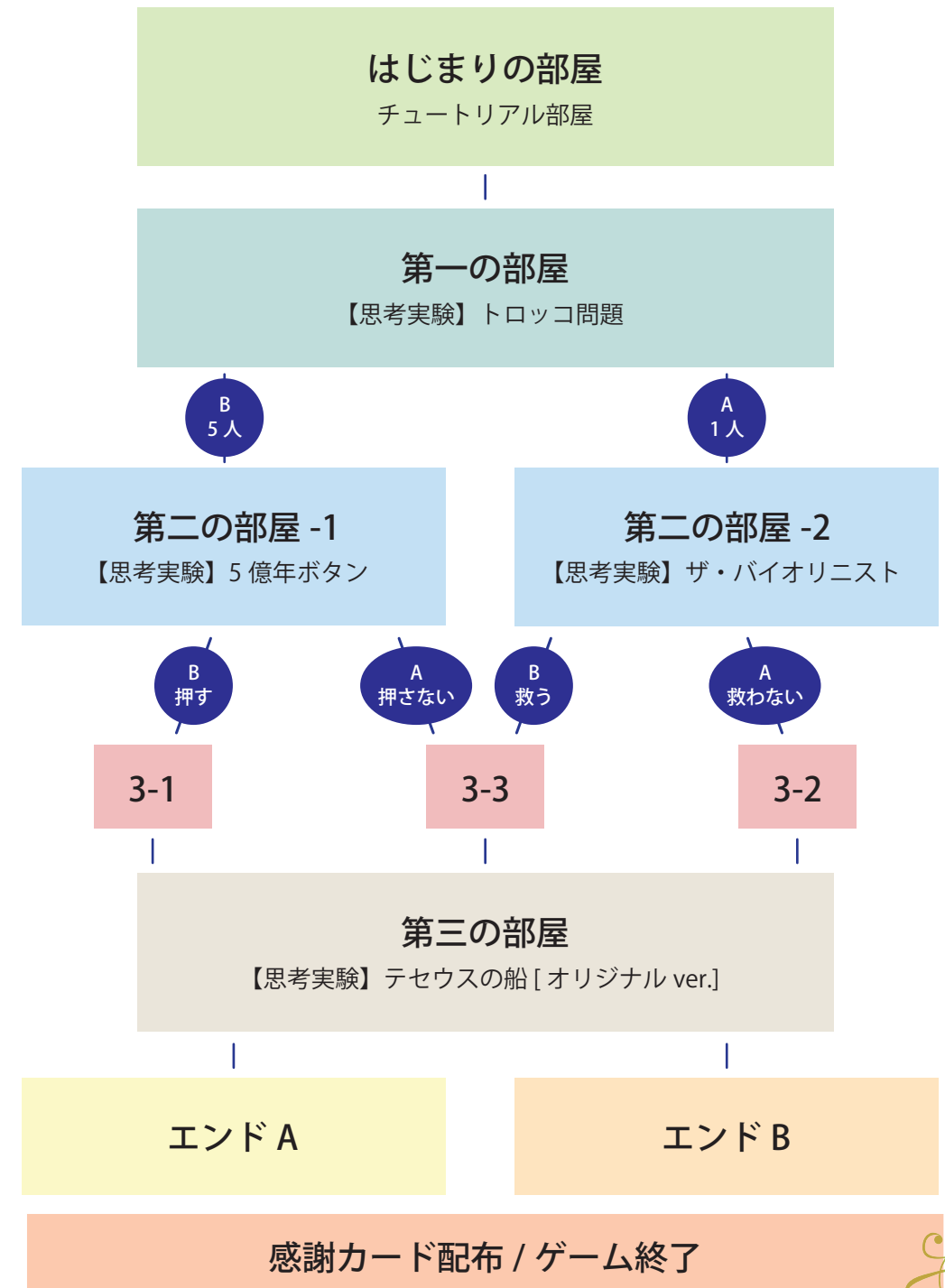
貴方は目が覚めると、見覚えのない部屋にいた。

床に横たわっていたようだ。

昨日のことを思い出そうと記憶を掘り返すが、昨日は

帰宅後自室で眠りについてはずだ。\_\_\_\_\_

## ステージプロット





Chapter

2

キャラクター

シナリオ内で登場する案内役の少女 A・少女 B のプロフィールを公開します。

本編では明かされなかった彼女たちの名前や想いを、皆様だけでも感じてください。





天真爛漫な小さな太陽

# 少女 A ヤヨイ

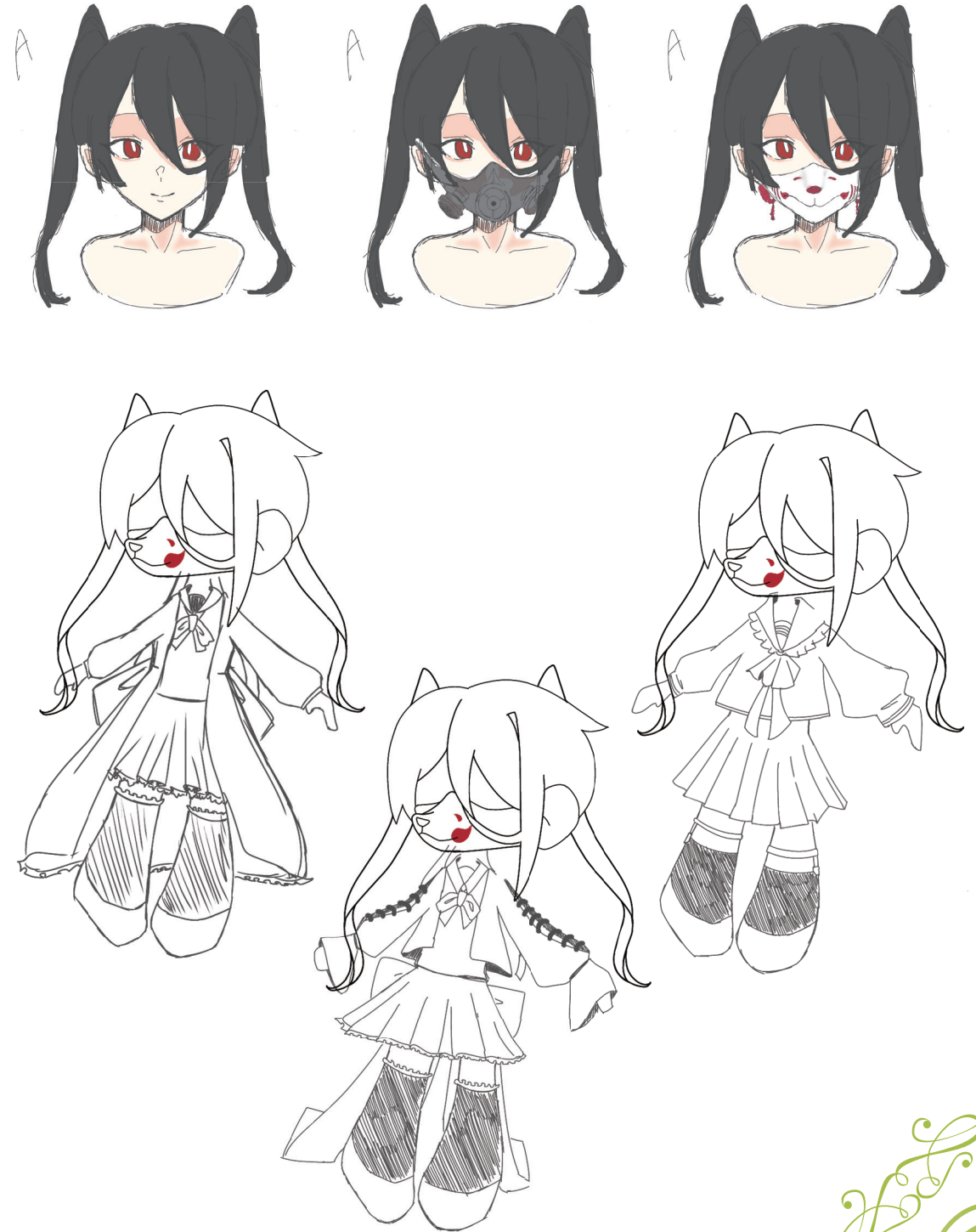
少女 B のコピーとして  
作られた少女。  
口調が幼く、明るい性格で  
ある。貴方たちの案内人として奮起していた。  
彼女自身に名前はなく、  
ヤヨイは少女 B が彼女に  
与えた名前である。



ささ、はやく行こ  
こっちだよ！

## 初期案 ラフまとめ

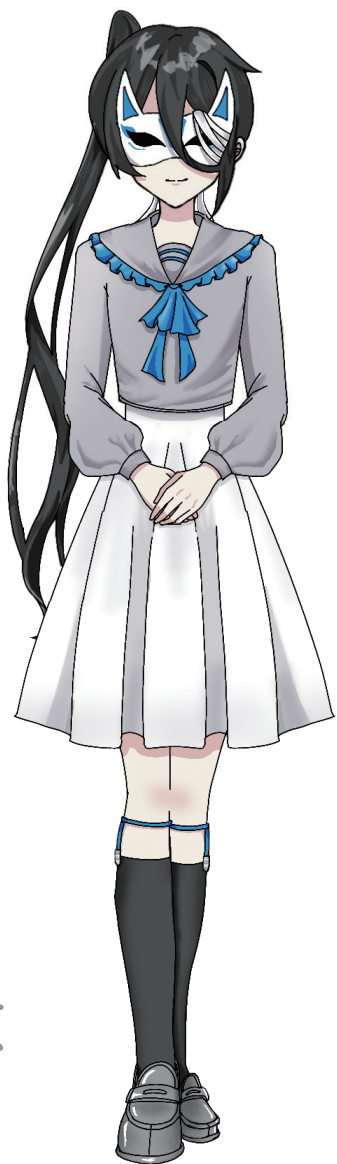
少女 B の後に、少女 A のデザインを制作  
しました。服装は、B のラフから選び、A にも  
合わせて、A と B の 2 人に合うデザインに  
決定しました。



温厚篤実な光らぬ月

# 少女 B やよい

少女Aの元となった少女。  
口調が丁寧で、冷静沉着である。貴方たちの案内人として全うしていた。  
仮面は、本作の舞台となる異空間が与えたもの。  
異空間では時間の流れが異なるため、彼女たちが過ごしてきた時間は、貴方たちよりもずっと長い。



僕たちのことは  
案内人とでも  
お呼びください。

## 初期案 ラフまとめ

キャラクターデザインは、少女Bから考えました。顔周りは早い段階で決定しましたが、服装にとっても悩みました。最終的に、世界観と合わせて3案に絞りました。



少女B「やよい」のコピーとして作られた。  
生まれて一番最初に感じたのは、いるはずのない  
両親と自らの主であるやよいの存在。  
自分が生まれてから、両親が実の子であるやよいを  
疎遠にし、自分を愛すようになった。  
そのことに、ヤヨイが抱いた感情は罪悪感だった。  
彼女の代わりとして生まれたにも関わらず、常に  
やよいを主として想い、唯一無二の『守るべき相手』  
として彼女を愛していた。

#### 彼女たちの想い

少女A「ヤヨイ」が生まれたとき、感じたのは「彼女は  
なにも悪くない」といった自己暗示にも似たもの  
だった。  
自分が実の子なのは明白だが、両親はヤヨイを愛した。  
しかし、ヤヨイは自分を愛してくれた。  
自分のことを気にかけてくれる。単純だが、それが  
心の底から嬉しかった。  
自分の代わりでもいい。自分の『子ども』として、彼女を  
愛し、生きて欲しいと願っていた。



## Chapter

# 3

## エンド解説

物語の終幕。エンド後の世界で、  
彼女たちがどうなったのか。  
ここに、記録として残します。  
誰も知るはずのなかった彼女たち  
の結末を、どうか見届けてください。



## エンド後の世界

エンド A とエンド B の分岐がありますが、その後の世界はどちらも同じ結末を歩みます。

貴方たちは前を向き、進んでいきました。しかし、少女たちはどうなったのでしょうか。

少女たちが過ごしていた異空間。少女が 1 人消えた異空間は、存在することができません。

つまり、少女 B を生かすエンド B を選択したとしても、彼女はあの世界と共に消滅する運命でした。

その運命を、少女 B は理解していましたが、少女 A は知りませんでした。少女 B が消滅したことは、少女 A も、貴方たちも知り得なかった裏話です。

エンド B は、少女 A も少女 B も両方消滅してしまう少し寂しいエンドでした。

エンド A では、最後に少女 B が自身の名前を、少女 A に授けています。

ヤヨイではなく、やよいでもなく、『弥生』として。

少女 A は、貴方たちと同じ世界で生きています。

少女 B のコピーではなく、1 人の普通の女の子として。



## Chapter

# 4

## 前日談

ファンブック限定 短編小説。  
貴方たちが、あの部屋迷い込むよりもずっと昔のお話です。  
異空間が生まれた背景を、ほんの少し触れてみてください。

両親が亡くなった。

大きな家に残されたのは、同じく大きな虚無感と、私と、小さな私のコピー。

「これから私は、どうしたらいいですか」

彼女が私に問う。きっと彼女は、自分は消えた方がいいと思っているのだろう。

『ここで、一緒に過ごそう。お父さんとお母さんが残してくれた遺産だけで、十分過ごしていけるよ。』

私がそう言うと、彼女は少し寂しそうに微笑んだ。

私たちはまだ子どもだ。保護者のいない子ども 2 人だけでは、一緒に暮らしていけない。別々の孤児院に行くのが順当だろう。分かっている。でも、彼女と離れたくない。

そのとき。

大きな揺れと激しい振動。立ち続けることができず、私と彼女はその場に倒れ込む。

「やよいっ、大丈夫っですか!?!」『大丈夫だよっ、ヤヨイちゃん』  
数分間の後、揺れが収まったのを確認してから彼女の手を引き、窓から外を確認する。

『なに、これ』

今まで見てきた景色と全てが異なり、よくテレビや図鑑でみる宇宙空間のようなものが広がっていた。

「あの、非科学的なことを言いますが、私たち、異空間に飛ばされてしまったんじゃない…」

『…うん、そうかもしれない。でも、なぜ…』

私たちが疑問を呟くと、小刻みに部屋がカタカタと震える。

「またですか…?」『いや、なにか…違う気がする。』

私たちの言葉に反応しているような。この家が、意思をもって動いたような気がした。

少し考え、天井を見上げて声をかける。

『…君は、この家そのもの? 私たちをこの空間に連れてきたのは、君なの?』

私の言葉に、カタ…と控えめに家全体が揺れる。

ヤヨイも、私の手を控えめに握りながら、声を掛ける。

「そんなことがあるんですか…? この空間は、どこなんですか…?」



返答を待てど、家は反応しなかった。

『君が望んで、ここに私たちを連れてきたの？ 私たちに  
して欲しいことがあるの？』

今度は私の言葉に肯定したのか、カタカタと揺れた。

何度か質問をし、試してみたところ、この家が意思を持った  
ことはやはり間違いなさそうだった。ただ、意思を共有する  
には、家全体や家具を揺らす、電気を消すなどの行動でしか  
表せないようだ。

分かったことは、この家が私たちをこの空間に飛ばしたこと、  
この空間は現実と異なり時間の流れが遅いこと、私たちの  
ためにしたということ。私たちの意思には関係なく、  
こんな不可解な出来事に見舞われ、挙句の果てには異空間に  
飛ばされた。

そんな私が感じていたのは、感謝と喜びだった。

ここでなら、ヤヨイと一緒に生きることができる。



私がそう思っていると、ヤヨイが小さく口を開く。

『やよい。ここがどこなのかも、この空間で生き続けることが  
可能なのかも分かりません。でも、私、ここに来られて  
良かったです。仮に短い時間になったとしても、貴方と  
一緒に過ごしていけることが、すごく、嬉しいんです。』

その言葉に、自然と頬が緩む。

彼女の感情が、元となった私の感情の模倣だったとしても  
同じ気持ちだったことに、私の心は温まった。

「私もだよ。過ごせるだけ、好きなだけ、ここで一緒に過ごそう。  
きっと、この家と私たち2人いればなんとかなるよ。」

嬉しそうに、コンッと机に置かれたコップが動く。

思わず笑みが溢れる。私とヤヨイは、キッチンにあった  
コップを持ち、動いたコップと小さく乾杯をした。

少女2人と不思議な家の始まりを知らせる音。

そんな音が、きれいに響いた。



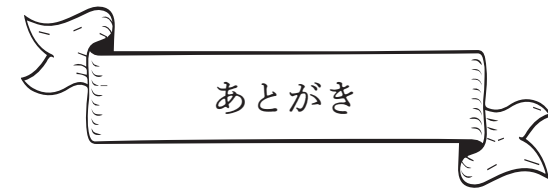


## Chapter

# 5

## あとがき

『答えのない問題』制作者からのメッセージを記載しました。公式HPやSNS、制作者のSNSもまとめてあります。



## あとがき

ここまでご覧いただき、ありがとうございます。

『答えのない問題』ゲームセット並びに公式ファンブック制作者の西原です。

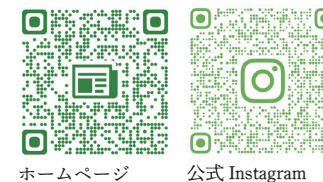
このファンブックはゲームセット自体とは、深く関係のないものです。物語では深く明かされない少女たちの想いが、誰にも知られずに消えていくのは寂しいと思い、この本を制作しました。彼女たちのことを、ほんの少しでも知っていただけたなら本望です。

『答えのない問題』シナリオストーリーに興味や関心を持っていただけたこと、この場を借りてお礼申し上げます。この本を通して、少しでも物語や世界観、少女たちに好意を持っていただければ嬉しい限りです。

この度は、私の卒業制作『答えのない問題』をご覧いただき誠にありがとうございます。

これからも私自身が楽しみながら、精進していきます。卒業制作『答えのない問題』が、少しでも社会の役に立てば幸いです。

『答えのない問題』関連サイト



ホームページ

公式 Instagram

制作者 SNS 活動名 ロン



X(旧 Twitter)

Instagram





# 答えのない問題



初版発行 令和1月14日

著者 西原 空来

連絡 公式HP お問い合わせから

印刷所 しまうま出版

本書を無断で模写、転載、転売、オークション出品等をするのは  
ご遠慮ください。

『答えのない問題』シナリオストーリーはフィクションです。登場する  
人物・団体・名称等は架空であり、実物のものとは関係ありません。



